

二、声明の基礎 (二)

— 声明の節譜 —

はじめに

声明の節譜(ふし)のことを「博士^{はかせ}」といいます。この「博士」には、五音博士^{ごいん}と目安博士^{めやす}の二種があつて、五音博士は直線や斜線などの線によつて五音(宮・商・角・徵・羽)の音階を示すものです。真言野山^{しんごんやさん}声明はこの系統を用います。目安博士は「ユル」ものはユルように、上げるふしは上げるようにふしの形を線であらわしています。しかし、複雑なふしには簡略化された独特な曲線が用いられています。天台声明は、この系統を用いています。

本願寺派の声明は天台系統ですから、目安博士の節譜を用いますが、近年、五音博士ともいえる節譜が用いられているものもあります。

譜名表 (主なもの)

譜名		主として用いられる音階名	譜名		主として用いられる音階名
1	スク	宮・商・角・徴・羽	17	ソリ	商・羽
2	上ル	宮・商・角・徴・羽	18	律ソリ	商
3	カナ上	商・角・羽	19	小由	商・羽
4	アタリ上	宮・商・角・徴・羽	20	小由ソリ	羽
5	フミ上	羽	21	イロ	商・角
6	ユリ上	宮・徴	22	タレ	商・角
7	オル	宮・商・角・徴・羽	23	マクリ	角・羽
8	受下	宮・商・角・徴・羽	24	アタリ	商・角・徴・羽
9	アタリ下	角	25	ウツリ	商・角・羽
10	本下	宮・角	26	ハル	商・徴・羽
11	モロ下	角	27	押出	変宮・変徴
12	アサ下	商・羽	28	キル	宮・商・角・徴・羽
13	早下	角	29	ササヤク	宮・商・角・徴・羽
14	律下	宮	30	落音	商・羽
15	ユリ	宮・徴			
16	律ユリ	宮・徴			

(一) 譜名

譜名は、約三十種ほどあります。これは古来練習する者が、練習の便宜のために註記したものが、譜名となったのであります。たとえば仮名で上げるから「カナ上」、当つて上げるから「アタリ上」というように、ふしの形そのものが、譜名になっています。なかには譜名が同じでも唱え方に多少相違したものもありますが、これは五音の関係で変化したのです。

(二) 節譜の解説にあたり

これからの声明の節譜（譜名）の解説をいたしますが、これについて申し添えておきたいことは、従来声明の稽古をするにあたって、譜名の解説より始めたことはありません。それが今回は通信教育という特殊な授業であるため、この方法を用いました。ついてはここで解説する譜名は、あくまでも基本的な型の解説であるということを、念頭においてください。ということとは、実際に声明に用いられる時、その前後の節譜によって変化するものもあるからです。それを一々説明することは、かえって繁雑であり、また理解しにくいと考えたからであります。

そのようなところは「声明の唱法」のところにおいて解説いたします。

これまでは洋楽五線譜によって解説してきましたが、五線譜では表わしにくい面もありますので、線書き譜に改め、見た目によってその型を会得してもらおう方がよいと考え、このようにしました。

(三) 節譜の解説

以下それぞれの譜名の解説をしていく訳ですが、その中で○印内の字は、声明本の作法名を略記したものであって、正式には次のとおりです。

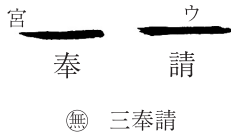
- ④ 無量寿経作法
- ⑤ 観無量寿経作法
- ⑥ 大師影供作法
- ⑦ 五会念仏作法
- ⑧ 二門偈作法
- ⑨ 広文類作法
- ⑩ 円光大師会作法
- ⑪ 讚仏偈作法
- ⑫ 報恩講作法

(2) 上ル 『勤式集』 上一二四頁)



始めの音より上音に上げるもので、どの音階にも用いられる。
 二字仮名の場合は上げたところに二字目の仮名をつける。

(1) スク 『勤式集』 上七頁)



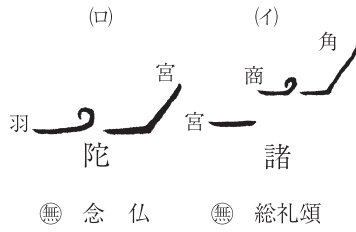
同じ高さで、まっすぐに唱えるもので、どの音階にも用いられる。

(3) カナ上^{アゲ} 『勤式集』 上八頁)



二音節(二字仮名)の字の場合に、上音に上げてから仮名を唱えるもので、主として、商・角・羽から上音に上げる場合に用いられ、音階によっては、上げる音程に一音と一音半の場合がある。

(4) アタリ上 (当上) 『勤式集』 上二頁、上十二頁



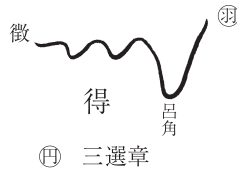
これには二種がある。
 (イ) スク、またはユリから上音に上げてアタリ、更に上音へとハル、宮または徴から上音に上げる場合に用いられる。
 (ロ) 出音の音でアタリ、上音に上げる。

(5) フミ上 『勤式集』 上二一八頁



スクを唱え、声をつめ、上音に上り、声をたるませて、再度上音にかえる。
 呂曲に用いられ、ユリなどに連続するのが特徴である。

(6) ユリ上 『勤式集』 下一四〇頁



ユリにつづいて上音に上げるもので、ユリおわり、つづいて、一音半下げたから、二音半上げる。

(7) オル 『勤式集』 上二頁



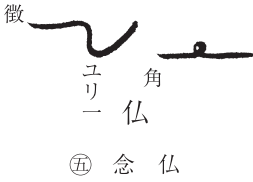
出音の音より下音に下げること。音階によって下げる音程は、一音、一音半、二音半の場合がある。

(8) 受^{ウケ}下^{オリ} (『勤式集』上二頁)



総礼頌
オルと同じ唱え方であるが、
前の音を受けてオルのが特徴
である。

(9) アタリ下^{オリ} (当下) (『勤式集』上一六〇頁)



ユリ、またはスクから下げて、
アタリを唱える。二音節の字
の場合は、下げる時に仮名を
つける。

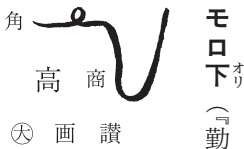
(10) 本^{ホン}下^{オリ} (『勤式集』上二頁、上一四八頁)



これには二種がある。
(イ) アタリを唱えて声を丸く
落して、出音より一音半のと
ころでおさえる。宮と角に用
いられる。

(ロ) 角の本下がソリ、アタリ、
イロ等に連続する時は、徴よ
り角に下るアタリの後、声を
落して商でおさえる。

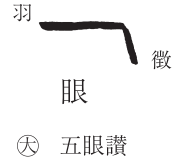
(11) モロ下^{オリ} (『勤式集』上一二六頁)



アタリを唱えて声を一音半た
るませて、またもとの音にも
どる。角に用いられるのが特
徴である。また複合旋律型
の中に出ることが多い。



(12) アサ下オリ (『勤式集』 上二一八頁)



オルと同じ要領であるが、浅くかるく一音下げられるもの、商・羽に用いられる。
アサ下は、ユリにつづくフミ上、またはユリ上に連続することが多い。

⊕ 五眼讃

(13) 早下オリ (『勤式集』 上二二八頁)



出音して、上音に上げて、かるくアタリ、それからオル。

⊕ 画讃

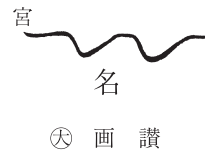
(14) 律下オリ (『勤式集』 上二頁)



かるくアタリ、ゆっくりと一音下げ、しばらく声を保つ。

⊕ 総礼頌

(15) ユリ (『勤式集』 上二二六頁、上二一八頁)



安定した音を保ちながら一音おり、もとの音にかえる。
呂曲のユリは、半音をおだやかにおり、もとの音にかえる。いずれも宮と微に用いられる節譜である。

⊕ 画讃

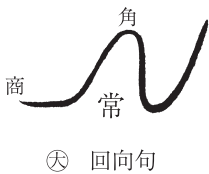
(16) 律ユリ (『勤式集』 上十四頁)



声を途中でとめ、再度同じ音で声をつぐ。(スクースク)

⊕ 念仏

(17) ソリ (『勤式集』 上二四六頁)



上音にソリ上り、また下り再度上音にもどす。商と羽に用いられるが、音階によって一音と、一音半の時がある。
羽のソリで、微のユリにつづく時は、微より羽にソルことがある。

⊕ 回向句

(18) 律ソリ (『勤式集』 上二頁)



⑧ 総礼頌

出音後、声をつめてから一音上げ、ソリの後半のように唱える。商に用いられ、出音は宮である。

(19) 小由 (『勤式集』 下三二頁)



⑨ 総序

かるくアタリ、つづいて半音のユリを一回唱える。商・羽に用いられる。

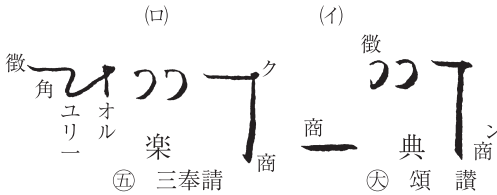
(20) 小由ソリ (『勤式集』 にはなし)



⑩ 恩徳讚

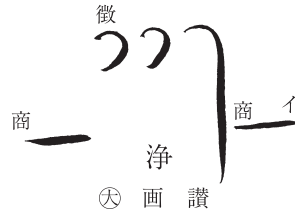
小由の始めの部分にソリが連続するもので羽に用いられる。

(21) イロ (『勤式集』 上一二四頁、上一五六頁)



ユリの変化したものと いわれる。商、または角から出て徴一角、徴一角と二回あるいは三回急速に上下する装飾的な旋律をいう。しかし単独に用いられることがなく、前後にある節譜をふくめて、イロと現在はいわれている。

(22) タレ (『勤式集』 上二二八頁)



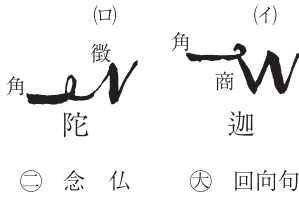
商で出音し、イロ(徵・角)を唱え、その三回目は声を落して息をつぎ、商にもどす。

(24) アタリ (『勤式集』 上二二頁、下二二四頁)



(イ) 声をつめるようにして一瞬止め、声をつぐ。それは物にあたる感じである。

(23) マクリ (『勤式集』 上二四八頁、下八四頁)



これには二種がある。

(イ) 角のスクでアタリ、商に下げ角―商―角と直線的に上下する。

(ロ) 角のスクでアタリ、徵―角―徵と上下する。



(ロ) 角より徵に上げた所で声をつめるようにして商に下げる。

(25) ウツリ (『勤式集』 上一五六頁)



上音にウツツていく気持で唱えるもので、音程は一音。なお二音節の字の時は、仮名をつけてからウツル。

(26) ハル (『勤式集』 下二頁)



上音にウツツていく唱えぶり
は、ウツリと同じであるが、
音程が一音半とされている。

(29) ササヤク (『勤式集』 上十頁)



ユリまたはスクの終りで、口
の中でササヤク気持で唱える。
入声へフ、ツ、ク、チ、キ
の音で終る仮名に用いられる。

(27) 押出 (『勤式集』 上一一八頁)



変徴、または変宮でアタツて、
半音上の音階に押し出すよう
な気持で上げる。

(30) 落音 (『勤式集』 上四頁)



スクから次第に下音に落すも
ので、音程よりも下降する唱
えぶりが大切である。
二音節の字は仮名をつけてか
ら落音となる。

(28) キル (『勤式集』 上八頁)



ユリ、またはスクの終りを少
し上げて、押さえるように下
げる。

以上三十種で、本願寺派において用いられて

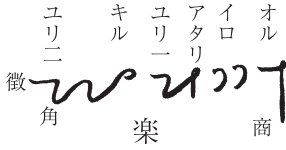
いる主な譜名の解説は終わりますが、この中には
テキストは勿論、『浄土真宗本願寺派 勤式集』に
も出てこないものもあります。これは後日声明
をもっと勉強される時の、参考としてください。

なおこのうちよく用いられる譜名はそう多くはありませんから、この解説とCDで十分に習得してください。

(四) 複合旋律型の数例

声明には、前記の節譜が種々に組み合わせられて、一連の旋律型を形成して、それがあたかも一つの旋律のように用いられる、複合旋律型があります。いまそのうちよく用いられている例を二、三記しておきます。

(一) ユリ(二回) — キル — ユリ(一回) — アタリ — イロ — オル

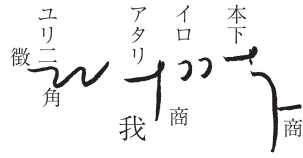


(例) 『勤式集』上(二五六頁)

「三奉請」の「散華楽」の楽の譜であります。

このような旋律型は、「伽陀」「誦讚」等によく用いられています。

(二) ユリ(二回)ーアタリーイロー本下



(例) 『勤式集』下(二一八頁)

「讚弥陀偈作法」の「回向句」

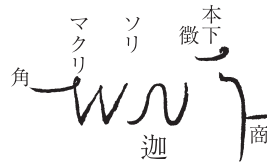
第一句目「哀愍覆護我」の我

の譜です。

アタリ、本下の形に注意し

てください。

(三) マクリーソリー本下



(例) 『勤式集』上(二四八頁)

「大師影供作法」の「回向句」の

「釈迦」の「迦」の譜です。

以上で本講を終わります。

しかし、これで本願寺派の声明の節譜の総てを記し終ったわけではありません。ここでは一般に用いられているものを取りあげてみました。

学習のねらい

- (1) 譜名によっては、数種の唱え方のあることを知っておきましょう。
- (2) 音が移り変わる唱えぶりに注意しましょう。